

着任のご挨拶



「着任のご挨拶」

エコサイエンスコース
准教授 相蘇 春菜

2022年12月1日付で山形大学農学部食料生命環境学科エコサイエンスコースに着任しました。相蘇春菜と申します。この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は、宇都宮大学農学部森林科学科に入学し、学部3年次に森林資源利用学・木材材料学研究室に配属後、そのまま研究を続け、東京農工大学大学院連合農学研究科（配置大学・宇都宮大学）で学位（博士（農学））を取得しました。その後、宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター技術補佐員、（国研）森林研究・整備機構 森林総合



「着任のご挨拶」

バイオサイエンスコース
助教 木村 ゆり

2023年9月より、農学部食料生命環境学科バイオサイエンスコースの助教に着任いたしました。木村ゆりと申します。鶴窓会だよりでご挨拶の場をいただけたこと嬉しく思います。

私は、大阪府羽曳野市の出身で、学部は大阪市立大学の理学部化学科を卒業いたしました。その後、植物科学と木質科学の分野に興味を持ち、修士課程より京都大学農学研究科応用生命科学専攻に移りました。学位取得後はアメリカのウイスコンシン大学植物学部門にて3年間ポストドク経験を積んで参りました。人生の大半を関西圏で過ごしてきたため、東北地方での生活は何もかもが新鮮です。自然に囲まれたこの地

切に接してくださり、本ボジ切ました。周囲の方々は親切に接してくださり、本ボジ

研究所 特別研究員（学振PD）、静岡県立農林環境専門職大学 助教、新潟大学リサーチ・アドミニストレーター

を経て、現職に至ります。

様々な機関に所属してきましたが、貫して木材組織学を専門に研究を行っています。木材組織学のなかでも、「樹木はどのように自身の形化しているのか」という点に関心があり、樹木が支持機能の発揮のために生産する異常組織である「あて材」を研究対象としています。これまで

は、木材組織学の視点を中心に行つきましたが、山形大学農学部に着任した現在は、化学成分分析も組み合わせた実験を進めており、樹木の支持機能の解明により切り込むべく、日々試行錯誤しています。

加えて、山形大学農学部着任後は、樹体支持機能の関連する現象として、豪雪地域でみられる「根元曲り」についても研究をスタートさせました。根元曲りは積雪による樹幹の倒伏と融雪後の樹幹の姿勢回復が繰り返されることによりみられる現象で、形成メ

域で植物の魅力に想いを馳せながら研究できること、とてもワクワクしています。

私の専門分野は植物ゲノム生物学で、植物が作り出す芳香族化合物の代謝について研究しています。特に、植物細胞壁の主要構成成分で植物の地上進出に必要不可欠なポリマー「リグニン」の生合成の多様性と進化が主な研究テーマです。リグニンは植物の体を支え水分を運ぶ役割を担う必須の要素であるにも関わらず、その構造は植物種間で大きく異なります。リグニンの構造は進化の過程でなぜ多様化したのか、その分子メカニズムを解き明かすことを目指しています。植物が大気中の二酸化炭素から得た炭素源のおよそ30%もがリグニンの合成に使われています。私が取り組んでいるリグニンの構造多様性に関する研究は、将来的には環境にやさしい社会づくりにも貢献できると信じています。

着任してから1ヶ月半が経ちましたが、周囲の方々は親切に接してくださり、本ボジ

カーズムに関する報告は多くあります。木材性質に関する報告は少ないので現状です。

生物学的機能と木材利用の能の解明と木材利用の高度化に貢献したいと考えています。

若輩者ではありますが、よう一層、教育・研究に努め参ります。指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

参ります。指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。若輩者ではありますが、よう一層、教育・研究に努め参ります。指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



「着任のご挨拶」

エコサイエンスコース
准教授 張 海仲

2023年4月1日付けて山形大学農学部食料生命環境学科エコサイエンスコース准教授として着任いたしました。張海仲と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は2012年に中国の河

ショウへのご縁に改めて感謝の気持ちでいっぱいです。特にメンターの豊増知伸先生には、研究室のセットアップから教育の仕方まで多大なご指導をいただきており、研究者としての第一歩を踏み出すのに大変恵まれた環境にいることを日々実感しております。わざったい可能性を信じてください。選考委員の先生方のご期待に応えられるよう、研究者としての第一歩を踏み出すのに邁進するとともに、学問の楽しさを教えられる教員になれるよう精進していくつもりです。まだまだ未熟ですが、どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

私は、山形大学農学部食料生命環境学科エコサイエンスコース准教授として着任いたしました。張海仲と申します。どうぞよろしくお願いいたします。



「着任のご挨拶」

アグリサイエンスコース
助教 今野 真輔

（平成27年食料生命環境学科卒）

2023年4月1日付けて山形大学農学部食料生命環境学科エコサイエンスコース准教授として着任いたしました。今野真輔と申します。この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は、本学農学部および大学院農学研究科を修了したのち、他大学で技術職員として勤務しておりました。今回、再び鶴岡に戻り、教育研究を行ふこととなり、大変うれしく思っております。着任のたまに、鶴岡に戻ってきた際には、学生時代にお世話になった、大学関係の方々や地域の方々に温かく迎えていただきました。これまで大学および地域に育てていただきましたので、これからは教育研究で貢献をしていかなければと身の引き締まる思いです。

私は農業環境工学・農業情報工学を専門としておりましたが、前職では畜産現場で業務にあたっていました。以前、本誌の「会員の声」に投稿させていただいたことがありました。そこから、畜産現場での生活は何もかもが新鮮でした。人生の大半を関西圏で過ごしてきたため、東北地方での生活は何もかもが新鮮でした。自然に囲まれたこの地

北大學を卒業し、その後留学生として来日しました。2013年に神奈川大学大学院工学研究科に入学し、修士課程と博士課程を経て、2011年間にわたり助教として勤めました。山形大学に来てもう半年が経ち、自由な職場環境や、周囲の皆様の暖かいサポート、そして庄内の自然環境に大満足しています。

私の専門分野は地盤工学・地震工学です。大学院生の際には、地震災害の軽減に向け、地震による地盤震動動をテーマにし、地盤震動特性の解明や評価方法の構築に取り組みました。学位取得後には、さらに地震危険性やリスクを事前に効率よく予測することを目指し、多様な手法に適用できる地震ハザード評価法の開発にも取り組んでいます。

庄内平野では、一般的に地震が少ないと考えられていますが、実際には長い歴史の中で大規模な地震が何度も起っています。また、庄内平野には長い活断層である庄内



皆様のご来店をお待ちしております。

内平野東縁断層帯が存在し、将来的にも強い揺れが予測されています。さらに、山形県では第三紀層が広く分布し、特に上川流域や月山周辺の地盤がもろくて、土砂災害が頻発しています。去年の12月にも鶴岡市西目で土砂災害が発生し、2名の犠牲者が出了ました。このように、今後も地震による土砂災害や林地被害などの自然災害が予想され、このような災害を低減できる組みたいと考えております。

これから、精一杯、研究・教育・地域貢献に頑張りますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申しあげます。

教育・地域貢献に頑張りますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申しあげます。

内平野東縁断層帯が存在し、将来的にも強い揺れが予測されています。さらに、山形県では第三紀層が広く分布し、特に上川流域や月山周辺の地盤がもろくて、土砂災害が頻発しています。去年の12月にも鶴岡市西目で土砂災害が発生し、2名の犠牲者が出了ました。このように、今後も地震による土砂災害や林地被害などの自然災害が予想され、このような災害を低減できる組みたいと考えております。

これから、精一杯、研究・教育・地域貢献に頑張りますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申しあげます。

令和5年度 山形大学農学部学生研究支援事業について

鶴窓会副会長

加茂田俊則

(昭和48年林学科卒)

今年は3回鶴岡キャンパスを訪れる機会がありました。春には同期会の開催記念で植樹した大学正門の河津桜の開花を見ることができました。青春時代に想いを馳せながら嬉しいものです。

元気で育っているのを見るのは支援事業で修士・学士論文の作成に挑戦する学生に1件5万円を限度にその研究活動における交通費や資料・書籍代等を給付し支援しています。

更に、今年度からは採択数を5件に増やし拡充しています。

今年度採択された研究課題のフィールドは水田から河川・溪流、森林と生産・生物・環境等といった自然科学を対象とする分野で農学部の特色を充分に表しています。

その豊かな生態系の中で遺伝

子レベルから動物機能や水田土壤に関する世界までを対象としています。

人と動物が創り出した作物、構造物との関わりや地域の身近な環境問題を研究課題に取り上げており納得できるものとなっています。また、

研究手法も高度化し、これに

対応した実験、調査器材も変化してきました。ドローン、MFC、オートファージ誘導剤、GIS・GPS、カメラトラップや各種実験法・解析手法等も駆使して多様な研究内容になっています。

今年の夏は猛暑で、庄内米の生育や学生諸氏のフィールド調査に加え研究対象そのものへの影響も心配されました。が、今後の学生の頑張りに期待し年度末には無事論文が完成するよう祈念しております。

今後も多くの学生諸氏の応募をいたたく中で、学生研究活動の促進に貢献できればと期待しています。



令和5年度 山形大学農学部 学生研究支援事業 申請課題 (申請7件、採択5件)

研究実施学生 食料生命環境学科 バイオサイエンスコース 龍野 愛佳

研究課題 太陽光が水田微生物燃料電池の発電や水田微生物生態系に与える影響

研究実施学生 食料生命環境学科 バイオサイエンスコース 吉田 菜瑞奈

研究課題 マウス新生仔期のオートファジー促進による原始卵胞の維持機構の解明

研究実施学生 農学研究科 生物生産学領域 圓谷 修平

研究課題 山形県の水田土壤におけるリン酸蓄積と有効利用

研究実施学生 農学研究科 生物環境学領域 鈴木 美緒

研究課題 野生動物の生息地を通る林道が担う機能：哺乳類の移動経路と採餌場所としての評価

研究実施学生 農学研究科 生物環境学領域 棚方 宏昇

研究課題 UAV空撮画像を用いた河川分断区間におけるサケ科魚類の生態管理に向けた研究

令和4年度 鶴窓会会長賞について



令和4年度 鶴窓会会長賞受賞者

- 受賞学生 食料生命環境学科 アグリサイエンスコース4年 藤村 啓史
論文題目 ダダチャマメに由来する遊離アミノ酸の高蓄積を制御する遺伝子座の同定
- 受賞学生 食料生命環境学科 アグリサイエンスコース4年 朝倉 浩介
論文題目 野生種トマトの連続光耐性の評価
- 受賞学生 食料生命環境学科 バイオサイエンスコース4年 長瀬 友希
論文題目 ワルナスピ *solanum carolinense* の地上部に含まれる成分に関する研究
- 受賞学生 食料生命環境学科 バイオサイエンスコース4年 黒澤 さくら
論文題目 未培養微生物の獲得率を向上させる培養法の構築と活性汚泥細菌群を用いた多様性評価
- 受賞学生 食料生命環境学科 エコサイエンスコース4年 山下 純平
論文題目 多雪環境においてニホンジカの採食圧に伴う植生衰退が哺乳類各種の生息地利用に及ぼす直接・間接効果
- 受賞学生 食料生命環境学科 エコサイエンスコース4年 鉢持 ひろ
論文題目 東北地方の一級河川におけるESBL産生大腸菌の特徴と地理的分布
- 受賞学生 農学研究科 生物生産学領域2年 上田 恵子
論文題目 脱脂米糠由来タンパク質濃縮物の食品化学諸特性の評価
- 受賞学生 農学研究科 生物資源学領域2年 細越 佑香
論文題目 安定同位体の自然存在比を用いた植物・土壤生態系における土壤炭素・窒素の動態変動に関する研究
- 受賞学生 農学研究科 生物環境学領域2年 森 祐哉
論文題目 庄内地方の河川に存在するESBL産生大腸菌の薬剤耐性とその起源解析